

# 年頭所感 2025

公益社団法人 北海道臨床工学技士会  
会長 布施崇宏



新年明けましておめでとうございます。北海道臨床工学技士会会員の皆様、そして関係者の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

さて、2024年を振り返りますと、元日に震度7を記録した能登半島地震が発生し、翌日には航空機の衝突事故が起こるといった衝撃的な幕開けとなった年でした。他にも石川県での大雨被害、宮崎県での震度6弱の地震、そして初の南海トラフ地震臨時情報の発表等、北海道には直接被害はございませんでしたが、自然災害の脅威と災害に対する備えの必要性を改めて考えさせる1年でもありました。

昨年は6月に私が会長に就任して新たな体制のもと皆様と様々な事業に取り組ませていただきました。令和5年に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に変更になり当会の事業もWeb中心から対面開催へと大きく変化中、会員の皆様のニーズも大きく変化し変革の時を迎えております。そのニーズに対応するため4つのワーキンググループを立ち上げました。1つ目は会員数がまもなく1600人を迎えることから迅速かつ効率的な意思決定を目的とした代議員制導入のためのワーキングです。2つ目に会員の皆様の個人情報の取り扱いにおける役員の仕事量の軽減とセキュリティ対策を目的とした会員情報システムの導入のワーキングです。3つ目は現在年1回刊行している北海道臨床工学技士会会誌のあり方について議論する会誌検討ワーキングです。論文掲載をする場合の形式の検討並びに委員の負担軽減に向けた方法を複数年かけて検討していきたいと考えております。最後に先程も少し触れましたが、コロナ禍以降の工学会のニーズも変化してきており、より魅力的な工学会を実現させるために北海道臨床工学会のプログラム検討ワーキングを立ち上げました。令和7年第36回臨床工学会へ向けて活動を開始する予定ですのでぜひご期待いただきたいと思います。

今年の干支は乙巳（きのとみ）です。巳は脱皮を繰り返し成長することから「再生」と「変化」を象徴すると言われています。また、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった意味も込められています。新たな年の始まりにあたり、当会は更なる発展を目指し、未永く安定した組織であるための基盤づくりの年にしていきたいと思っております。この目標達成に向け誠心誠意努めていく所存です。

本年も北海道臨床工学技士会へのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。